

○飯田市に伝わることわざあれこれ○

- 三日月の欠けた方が下を向いていると雨
- 南山に雲がかかると雨が降る
- 恵那山に雨が降るとすぐこっちにやってくる
- 東夕立は降りが強く長い
- 雲が北へ向うと必ず雨、東に向うと小雨
- 蜂が巣を高い所につくると強風がなく、
低い所につくると合風がくる
- 蜘蛛の巣が沢山かかると晴れる
- 雨蛙が鳴くと雨が降る
- 鯉がはねると雨が降る
- 猫が耳をこすると雨が降る
- 鍋の底に火がつくと雨が降る
- 石のユケチ来ない（落ちてこない）ところ、水の近いところ、
風の当たらないところに家を建てる

飯田市に伝わる 災害おはなしマップ



天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会

飯田市に伝わる災害

おはなしマップ

てんりゅうかわ

●天竜川のおはなし

天竜川は、昔から大雨が降ると川筋が変わるほどに氾濫したので、「あばれ天竜」といって恐れられていました。また、伝説も多く残されています。

むかし南の海に住んでいた大きな竜は、暴れんぼうで気性が荒く、仏様に天の果へと追いやられてしまいました。竜は、天に昇ってから雲や風をけちらし、強そうにそびえる八ヶ岳にけんかをしかけました。ぐるぐると山に巻きつき締めつけたので、こらえきれなくなった八ヶ岳はどかんと噴火しました。

その勢いで竜は吹き飛ばされ、伊那の山々の間にどっさりと落ちました。その跡に川が流れ、天竜川と呼ばれるようになったといわれています。

むかしのおはなしは、川がときに恐ろしい姿に変わり、襲いかかってくることを教えてくれています。

水に挑んだ長左衛門のおはなし 2ページ

大宮諏訪神社への祈願 3ページ

貝鞍が池の主と人柱がわりの墓石 1ページ

子泣き石（夜泣き石）2ページ

北原の土石流 4ページ

水神・山の神 4ページ

諏訪宮のなぎがま 3ページ

★ 飯田市に残る災害にまつわるおはなし・・・1～4ページ

● 水害にまつわる飯田市の石碑や指標・・・5～6ページ



飯田市には、災害にまつわるおはなしがたくさん伝えられているよ！そのいくつかを紹介するよ。



★ ^{かいくら}貝鞍が池の主と^{ひとばら}人柱がわりの^{かわじ}墓石（飯田市川路）

池や川には主の大蛇や竜が棲んでいるといわれます。むかし、川路村の天竜川沿いには、貝鞍が池と呼ばれる池がありました。この池を埋め立てて新田をつくるということになりましたが、人々は大蛇のたたりを恐れ、人柱がわりにご先祖様の墓石を埋めて主の怒りを静めました。



いよいよ埋め立ての日、村で見慣れぬ美しい娘が、天竜川に沿って大下条にある深見の里へと急ぐ姿が見られました。深見の里では、麦畑が広がり吹き渡る風が穂先を揺らし、村人は穏やかに暮らしていました。

ある日、この里に居ついた娘は、井戸に水を汲みに行ったまま帰ってきませんでした。井戸には娘の下駄が脱ぎ捨ててあり、哀れに思った村人は井戸の底をあらいましたが、娘の姿はありません。

しばらくすると、晴れ渡った空が急に暗くなり、大雷雨が深見の里一帯を真っ暗闇に包み込みました。雨があがり、村人が辺りを見回すと、麦畑が大きな池に変わっていました。驚いた村人は、お祭りをして水の霊を慰めたといわれています。

このように、主の大蛇が棲んでいる池や川を、人々が脅かすことによって天変地異がおこるおはなしは、伊那谷にたくさんあります。

- コト 主の大蛇が池に棲み続けることができなくなり、他の池に移り棲むというおはなしは、下伊那地域に多く伝わっています。
- 池が洞の主（飯田市鼎町切石）
 - 蛇が池の主（阿智村浪合蛇峠）
 - とうぢやげの池の大蛇（天龍村神原）

★ ^{いど}水に挑んだ^{ちょうざえもん}長左衛門のおはなし（飯田市北方）

水に挑み、偉業を成し遂げた山本長左衛門を称える石碑があります。むかし、新井川は、よく山抜けが起こり、荒れ果てていました。



長左衛門はこのことを知り、村人を救うために飯田の殿様に河川工事を願い入れ、仕事にとりかかりました。

ところが、降り続いた雨で水かさが増し、弱くなった土手が崩れ、家や田が流されてしまいました。村人から訴えられた長左衛門は、牢屋に入れられてしまいましたが、村のために用水を完成させたいという思いは変わりませんでした。牢屋の中で熱心に設計書をつくり直し、それが認められて再び河川工事を開始することができるようになりました。

そして長左衛門は、村人の非難にめげることなく、ついに用水を完成させたのです。このおかげで立派な水田ができ、村人からは感謝されるようになりました。

石碑は今もなお、水害に立ち向かった人の姿を伝えています。

★ ^{こな}子泣き石（^{よな}夜泣き石）（飯田市上郷別符）

月れた山から大きな石がぶつかり合い、火花を散らしながら濁流とともに流れてきます。



正徳五年（1715年）未満水の時、小さな赤ん坊が、野底川から運ばれてきたという大石の

下敷きになりました。それ以来、赤ん坊の悲しそうな泣き声が聞こえるようになり、哀れに思った近所の人たちが石の上にお地藏様を祀ったところ、泣き声がピタリと止んだと伝えられています。

（「下伊那川たんけんブック天竜川とわたしたちのくらし」より）

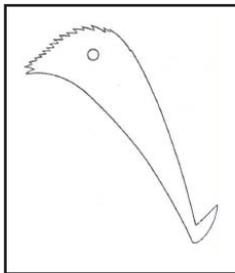
★ おおみやすわじんじゃ
大宮諏訪神社への祈願（飯田市宮の前）

むかし、^{しょうとく}正徳五年（1715年）^{ひつじまんすい}未満水の時、荒れ狂う濁流から人々が
大宮諏訪神社の高台に逃げ集まり、一心に祈願しました。すると、水の流れ
が野底川と松川へわかれ、飯田は大災害を免れました。以後、^{ふうすいかいじんご}風水害鎮護
の神として崇められていたといわれています。（「東野の百年誌」より）

コトワ 伊那谷の水害は「満水」といって恐れられてきました。
満水は、天竜川沿いの低い土地でおこるだけでなく、高台の上や
山すそなど、あらゆる場所に水と土砂がおそ伊那谷特有の土砂災害
です。（「三六災害40周年 伊那谷の土石流と満水」より引用）
中でも正徳五年（1715年）の未満水は、^{みそう}未曾有の大災害として伝
えられています。

★ すわくう なかごう
諏訪宮のなぎがま（飯田市上村上町）

むかし、飯田市上村中郷に祀られていた諏訪明神が、
大洪水で今の諏訪宮まで流されてしまいました。その
諏訪宮には、なぎがまが二本祀ってあり、水害にあっ
たときに^{ねぎさま}祢宜様がなぎがまを持って川に行き、川すじ
をひくとその通りになったと伝えられています。



（「諏訪旧蹟誌」に
見えるなぎ鎌）

コトワ 本来諏訪信仰の中で風切りの難い鎌として用いられたものが、
天竜川流域では洪水の瀬を切る道具として用いられました。
^{とよおか}豊丘村では、大水がでたときに明神様でお祭りをし、神様からいた
だいた瀬分け鎌を持ってはだかになった大勢の若者が天竜川へとび
こみ、瀬分け鎌を引くとたちまちに瀬が変わって村が助かったとい
うおはなしが伝えられています。（「天竜川の災害伝説」より）

★ すいじん かみむら みなみしなの
水神・山の神（飯田市上村・南信濃）

むかし、^{とおやまだに}遠山谷では雨がたくさん降ると、
水荒れ（洪水）と山荒れ（山抜け）とが同時
に襲いかかってくることから、山と水が関連
する場所（^{さんきょう}山峡の橋のたもとや川を見下ろす
山裾など）に水神と山の神の碑をたて、荒ぶ
る神を静めました。



（山の神、水の神とオタカラ）

また、山の神と水の神が結び合って水の供
給源となることから、水源となる山にも祀ら
れています。（「遠山川流域の民俗とふるさ
とイメージの創造」より）

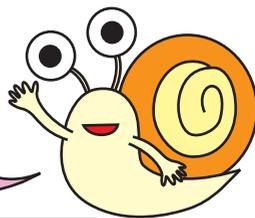
コトワ 本来遠山谷には「山の神・水神」と二つの神の名が並んで刻
まれた石碑がたくさんあります。石碑とともに、山の神を表す赤
い半紙と水神を表す白い半紙を二つに折り竹串にはさんだ「オタカ
ラ」といわれる幣束が祀られています。（「遠山川流域の民俗とふ
るさとイメージの創造」より）

★ どせきりゅう しもひさかた
北原の土石流（飯田市下久堅北原）

むかし、^{しょうとく}正徳五年（1715年）^{ひつじまんすい}未満水の時、飯田市下久堅北原で土石
流が発生し、一晩で北原の裏の洞がぬけてできました。

またこのとき、洪水によりたくさんの流木が流れてくるので、天竜
川にそれを拾いに行った人たちも多く、とうとう^{とらいわ}虎岩（飯田市下久堅）
の^{ごえもん}五右衛門さんや^{ちくたいら}和久平（飯田市下久堅）の^{すけしろう}助次郎さんは濁流に飲み
込まれて^{ゆくえらめい}行方不明になってしまったと伝えられています。（「天竜川
の災害伝説」より）

洪水を鎮めるために祀られた水神碑や災害からの復興を記念した石碑・出水のめやすをはかった物が飯田市にはたくさん残されているよ！



水害にまつわる飯田市の石碑や指標

1 烏帽石(えぼし岩) (飯田市川路姑射橋下流左岸)

むかし、仙人が宴をして酒に酔ってしまい、烏帽子を忘れていったあとにできた岩と伝えられています。
地域では、洪水の時の出水規模のめやすとされてきました。

2 川路郷家屋移転記念碑 (飯田市川路)

三六災害により川路地区の低平地の家屋は壊滅的な打撃を受け、災害後この地区の人々は移転しました。(「三十年のあゆみ」より)



3 三六災害最高水位標 (飯田市川路)

天竜川総合学習館かわらんべ前の河原にあります。(「下伊那川たんけんブック 天竜川とわたしたちの暮らし」より)



4 三六災復旧記念碑 (飯田市龍江)

三六災害からの復興を記念して建立されました。(「三十年のあゆみ」より)



5 川路村からの移籍記念碑 (飯田市時又)

時又の旧川路村からの移籍記念碑で、裏面に川路から時又に移籍した人々の氏名が記されています。(「三十年のあゆみ」より)



6 弁天引堤記念碑 (飯田市松尾)

飯田松川の右岸から弁天橋を経て清水にかける松尾堤防を記念して建立されました。(「三十年のあゆみ」より)



7 河原弁天 (飯田市弁天橋付近)

弁天橋下流左岸側の河原の自然石の上に祀られている弁天さまで、高遠の弁天さまと同様に出水規模の目安にされてきました。(「三十年のあゆみ」より)



8 徳本さまの碑 (飯田市上郷別符)

正徳五年(1715年)未満水の後、徳本和尚が洪水で亡くなった人を弔ったと伝えられています。

9 九頭竜像 (飯田市上郷飯沼北条 御岳神社)

九頭竜は治水の他、病氣平癒・火防・虫除けなどにも霊験があり、戸隠の山伏・御師が県外各地を回ってお札を配り、頼まれれば祈祷もしたといわれています。





むかしから語り継がれてきた災害のおはなしには、災害から身を守る知恵や「二度と悲しい思いをしてほしくない」という人々の願いが込められているよ！もっとくわしく知ってみよう！

- まずは、家族や地域の人に聞いてみよう！
- 図書館しちょうそんしで市町村誌や本を調べてみよう！
- おはなしにまつわる場所に行ってみよう！

体験談・災害の記録に関する本

- **語り継ぐ天竜川シリーズ**
天竜川流域の災害・環境・歴史・文化などをテーマに執筆され、現在全60巻。天竜川上流河川事務所のホームページからダウンロードすることができます。
(http://www.tenjo.go.jp/~jimushohp/hyaka/publication/pbl_tell/pbl_tell.html)
- **「濁流の子 伊那谷災害の記録」** (昭和39年12月23日発行)
著者：碓田栄一 企画：建設省中部地方整備局天竜川上流工事事務所
- **「続・濁流の子 伊那谷昭和36年災害をのりこえて」**
(1993年3月発行)
企画：建設省中部地方整備局天竜川上流工事事務所
- **「三六災害二十周年記念誌 恐怖の豪雨」**
(1981年10月発行)
編集：三六災害二十周年記念誌編集会 出版：上郷村職員互助会

学習施設

- **天竜川総合学習館かわらんべ**
(<http://www.tenjo.go.jp/kawaranbe/>)
- **飯田市美術博物館** (<http://www.iida-museum.org/>)
- **大鹿村中央構造線博物館** (<http://www.osk.janis.or.jp/~mtl-muse/>)

参考文献

- **「下伊那川たんけんブック天竜川とわたしたちの暮らし」**
(平成19年4月1日発行)
編集：下伊那川たんけんブック編集委員会
企画・発行：国土交通省中部地方整備局 天竜川上流河川事務所
- **「三六災害40周年 伊那谷の土石流と満水」**
(平成13年5月1日第2刷発行)
編集：松島信幸・亀田武巳・村松武 発行：伊那谷自然友の会・飯田市美術博物館
- **「東野の百年誌」** (昭和45年12月発行)
編集：東野百年誌編纂委員会 出版：東野公民館
- **「天竜川の災害伝説」** (平成5年3月19日発行)
著者：笹本正治 企画・発行：建設省中部地方建設局天竜川上流工事事務所
- **「遠山川流域の民俗とふるさとイメージの創造」**
(平成9年3月15日発行)
著者：浮葉正親 企画・発行：建設省中部地方建設局天竜川上流工事事務所
- **「三十年のあゆみ」** (昭和55年3月発行)
発行：建設省中部地方建設局天竜川上流工事事務所

お願い

天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会では、天竜川上流域に関する過去に起こった災害の記録や地域に伝わる災害伝承を収集・整理し、そこから得た災害教訓を活かして地域の防災力向上に役立てていく試みに取り組んでいます。

貴重な資料、ご意見などございましたら下記連絡先にお知らせください。

<連絡先> 天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会事務局
〒399-4114 長野県駒ヶ根市上穂南7-10
国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所
担当：調査課 (電話：0265-81-6415)

<編集> 日本工営株式会社

※本誌の記事・写真・図表の無断転載は堅く禁じます。